
所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 古澤 嘉朗

U R L : <http://researchmap.jp/yfuru/>

研究キーワード : 平和構築、アフリカ、開発支援

■研究テーマ

① 平和構築における法の多元性に関する研究

本研究では、治安部門改革（security sector reform）を切り口に、紛争後社会における平和構築活動について着目します。これまでケニアやシエラレオネ、タンザニアなどで実地調査を行いました。

② 対アフリカ外交に関する研究

2013年6月に横浜市で開かれたアフリカ開発会議（TICAD）は、「躍動のアフリカと手を携えて」というスローガンにみられるように、従来の開発援助だけでなく、ビジネスの場としてアフリカ大陸を認識する1つの転機になったといえます。本研究は、従来のドナー諸国に加えて、BRICSなどをはじめとする新興援助国の転換しつつある対アフリカ外交に関する研究です。

■研究テーマの応用例

- * 産学連携：アフリカ進出を考えている企業に対する現地情勢のブリーフィング（ケニアとシエラレオネ）。
- * 地域連携：教育の現場や一般の方を対象にした場で、アフリカについて講演。

■主な著書、発表論文

【論文】

古澤嘉朗「岐路に立つ平和構築－武力紛争の推移に着目して（1991～2013年）」『現代思想』（青土社）第42巻第15号、2014年、120－29頁。

古澤嘉朗『『平和への課題』以降の平和構築研究の歩み』伊東孝之（監修）、広瀬佳一・湯浅剛（編）『平和構築へのアプローチ』吉田書店、2013年、35－48頁。

古澤嘉朗「国家建設と非国家主体－ケニアのコミュニティ宣言が示唆する国家像」『国際政治』（日本国際政治学会）第174号、2013年、41－53頁。

【翻訳】

ベイツ・ギル（進藤榮一監訳、古澤嘉朗・畠山京子共訳）『巨龍・中国の新外交戦略：日本はどう向き合うべきか』柏書房、2014年。

■主な特許、芸術作品等

■想定される連携先

- * 教育機関
- * NPO／NGO
- * 企業